

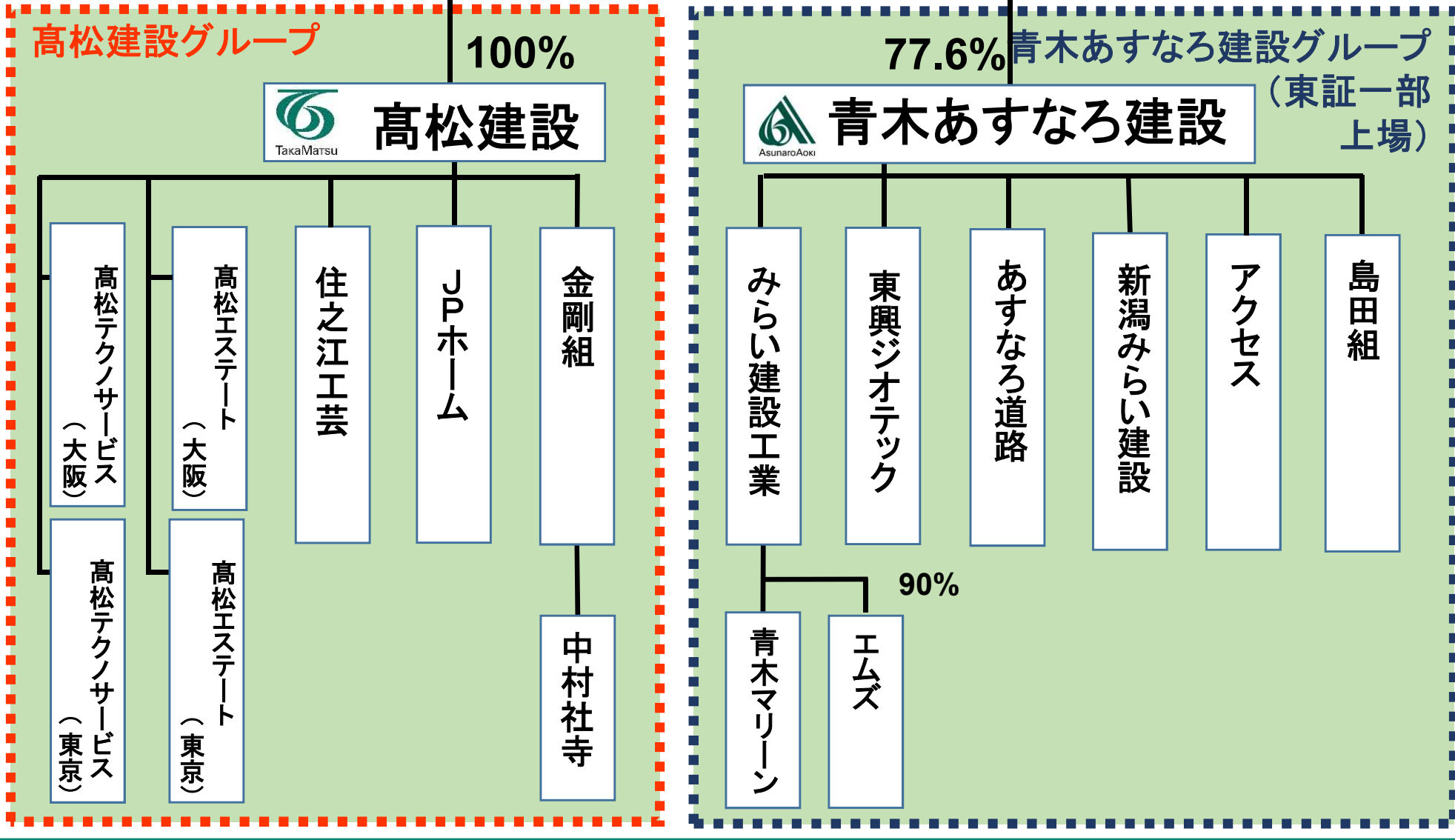
2018年3月期 第2四半期 説明資料

株式会社高松コンストラクショングループ

証券コード:1762

2017年11月27日

 高松コンストラクショングループ



保有比率は記載ない場合は全て100%

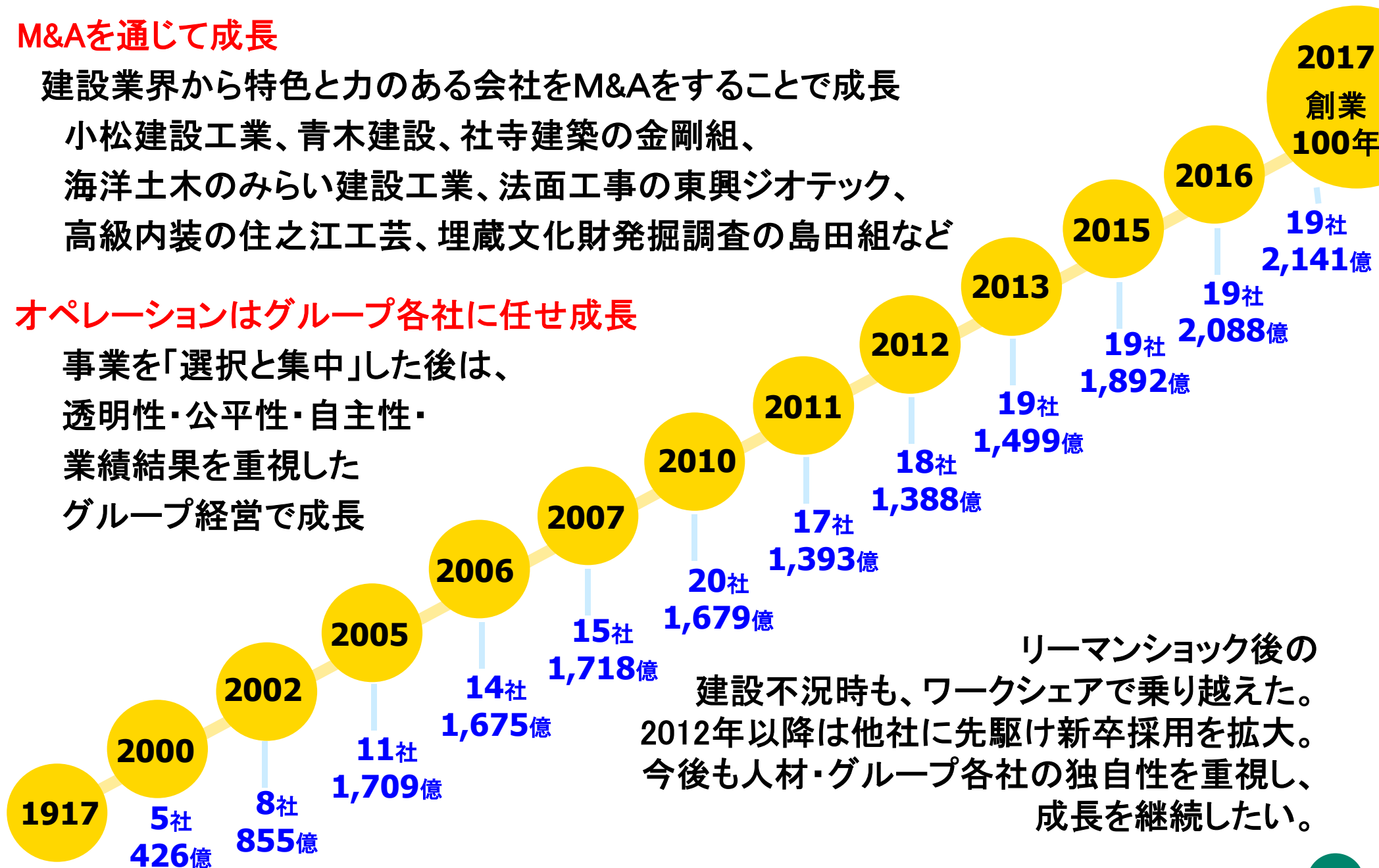
高松コンストラクショングループの特徴

M&Aを通じて成長

建設業界から特色と力のある会社をM&Aをすることで成長
小松建設工業、青木建設、社寺建築の金剛組、
海洋土木のみらい建設工業、法面工事の東興ジオテック、
高級内装の住之江工芸、埋蔵文化財発掘調査の島田組など

オペレーションはグループ各社に任せ成長

事業を「選択と集中」した後は、
透明性・公平性・自主性・
業績結果を重視した
グループ経営で成長

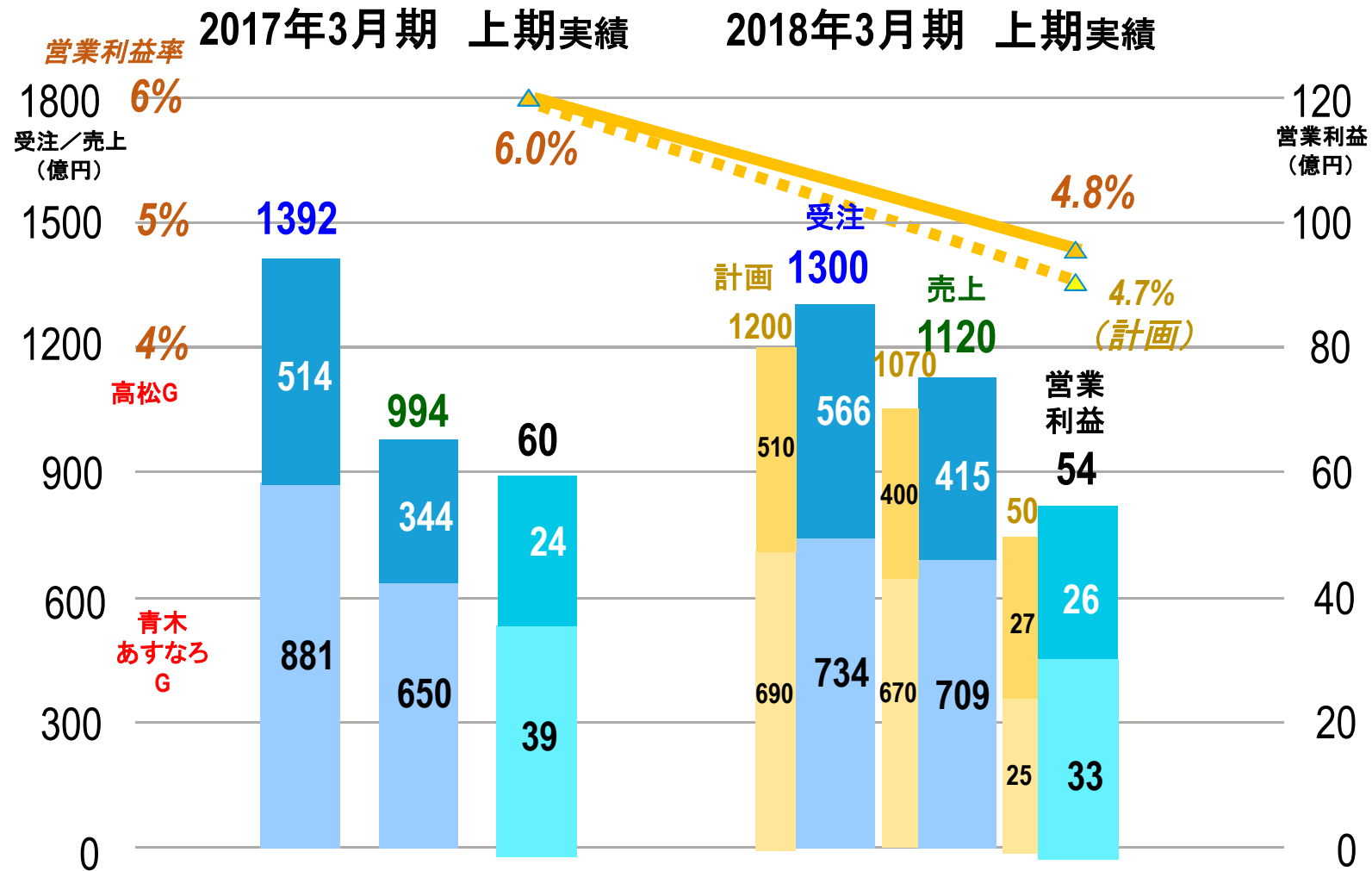


リーマンショック後の
建設不況時も、ワークシェアで乗り越えた。
2012年以降は他社に先駆け新卒採用を拡大。
今後も人材・グループ各社の独自性を重視し、
成長を継続したい。

2018年3月期 上半期決算

受注高・売上高・営業利益の推移（対前期、連結）



1. 受注：対計画は両Gとも順調。対前期では6.7%減少。青木あすなろGは前年度に大型案件あり前年割れ。
2. 売上高：対計画は両Gとも順調。対前期 +12.6%の大幅アップ。6期連続増収、4期連続過去最高。両Gとも増。
3. 営業利益：計画の50億円を4億円上回ったが、前年実績を6億円(△9.9%)下回った。青木あすなろGが△6億円。
4. 営業利益率：計画の4.7%を上回る4.8%だったが、前年実績の6.0%を1.2pt下回った。



単位: 億円。 管理部門費・連結調整等があり、グループごとの合算値は全社合計と一致しない。

業績(連結)の推移

1. 受注高: 対前期6.7%の減少。
2. 売上高: 対前期+12.6%の大幅アップ。6期連続増収、4期連続過去最高の第2四半期。
3. 利益: 前年同期に高採算建築案件の完工が多かった反動減もあり、
営業利益は対前期9.9%減、経常利益は対前期10.2%減、当期利益は対前期10.6%減。

項目 (単位:億円)	2017/3期 Q2	2018/3期 Q2	増 減			率(%)
			計	うちTKG	うちAAG	
受注高	1,392	1,300	△92	52	△146	△6.7%
売上高	994 	1,120	125	70	58	12.6%
売上総利益 (売上総利益率)	147  (14.8%)	149 (13.4%)	2	9	△7	1.7%
営業利益 (営業利益率)	60 (6.0%)	54 (4.8%)	△6	1	△6	△9.9%
経常利益 (経常利益率)	60 (6.1%)	54 (4.8%)	△6	1	△6	△10.2%
親会社株主帰属四半期純利益 (四半期純利益率)	31 (3.2%)	28 (2.5%)	△3	1	△3	△10.6%

単位:億円。 TCG単体・連結調整等があり、グループごとの合算値は全社合計と一致しない。

グループ別 受注高・売上高・売上総利益（連結）

1. 受注高は6.7%減の1,300億円、土木・建築共に微減。
2. 売上高は12.6%増の1,120億円。土木は青木あすなろ建設G好調で18%増、建築は高松建設G好調で9%増。
3. 営業利益は9.9%の減。建築は前期の高採算案件等の影響で反動減も、土木は売上増により43%の大幅増益。

高松コンストラクショングループ

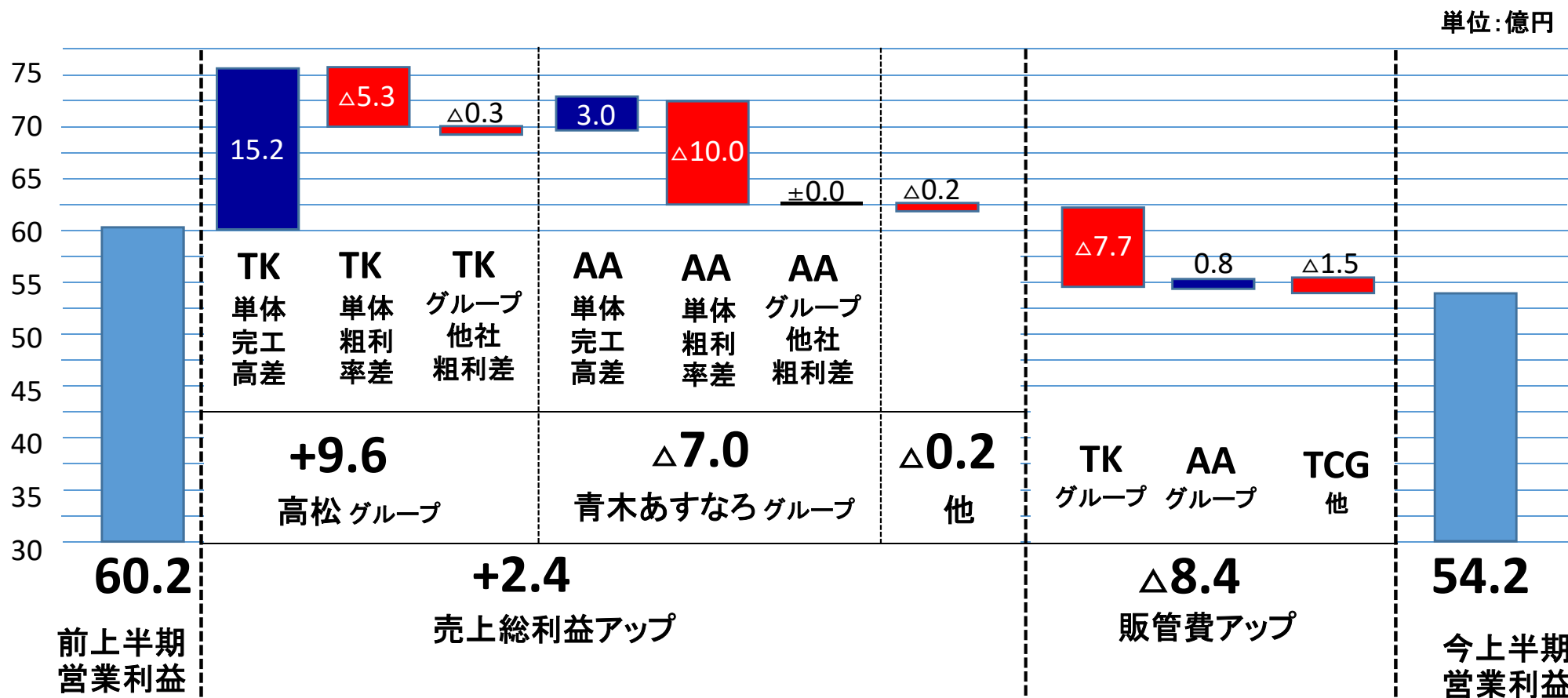
高松建設グループ

青木あすなろ建設グループ

高松建設グループ		青木あすなろ建設グループ		土木	建築	不動産	受注高	売上高	営業利益
高松建設	高松テクノサービス	高松テクノサービス	住之江工業	JPHホーム	金剛組	中村社寺	17/9 (16/9)	17/9 (16/9)	17/9 (16/9)
高松テクノサービス(大阪)	高松テクノサービス(東京)	高松テクノサービス(東京)	高松エステート(大阪)	高松エステート(東京)	高松エステート(東京)				
島田組	新潟みらい建設	あすなろ道路	東興シオテック	青木マリーナ	青木建設工業	みらい建設工業	587 (621)	502 (425)	28 (19)
					エムズ	青木あすなろ建設	△5%	+18%	+43%
							647 (710)	552 (508)	37 (50)
							△9%	+9%	△25%
							65 (60)	65 (60)	3 (5)
							+8%	+8%	△39%
受注高	566	734	1,300				△6.7%		
17/9	(514)	(881)	(1,392)						
(16/9)									
売上高	415	709	1,120					+12.6%	
17/9	(344)	(650)	(994)						
(16/9)									
営業利益	26	33	54						△9.9%
17/9	(24)	(39)	(60)						
(16/9)									

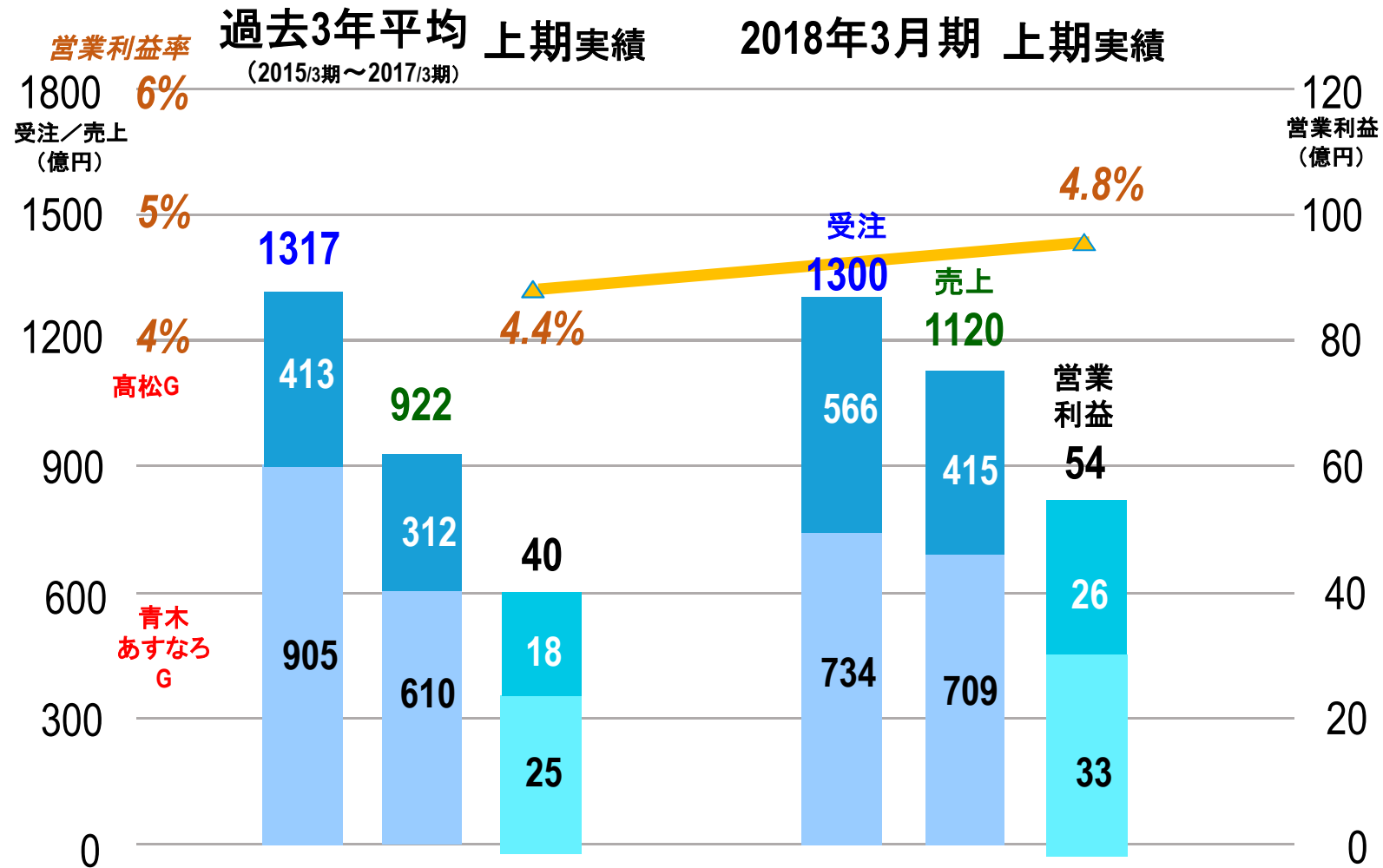
営業利益(連結)の対前年差異説明

1. 営業利益が前期の60億円から54億円にダウンしたのは、売上高が12.6%伸びたにもかかわらず、売上総利益が1.7%(2.4億円)の増にとどまったため。販管費は9.6%(8.4億円)の増で売上高の増を下回る伸び。
2. 高松Gの売上総利益は対前年9.6億円アップ。うち高松建設単体の売上総利益率ダウンは5.3億円。
→ 低粗利率の非マンション案件の増、高収益案件が下期完工に繰り越した等による。
3. 青木あすなろGの売上総利益ダウン△7.0億円のうち、青木あすなろ単体の総利益率ダウンによるものが△10.0億円。
4. この10.0億円のほぼすべては青木あすなろ単体の建築の粗利ダウンによるもの。これは昨年度の決算が特異値。
5. 対計画では、高松Gは若干計画より低い数値だが、通年では挽回予定。



受注高・売上高・営業利益の推移 2（対過去3年平均、連結）

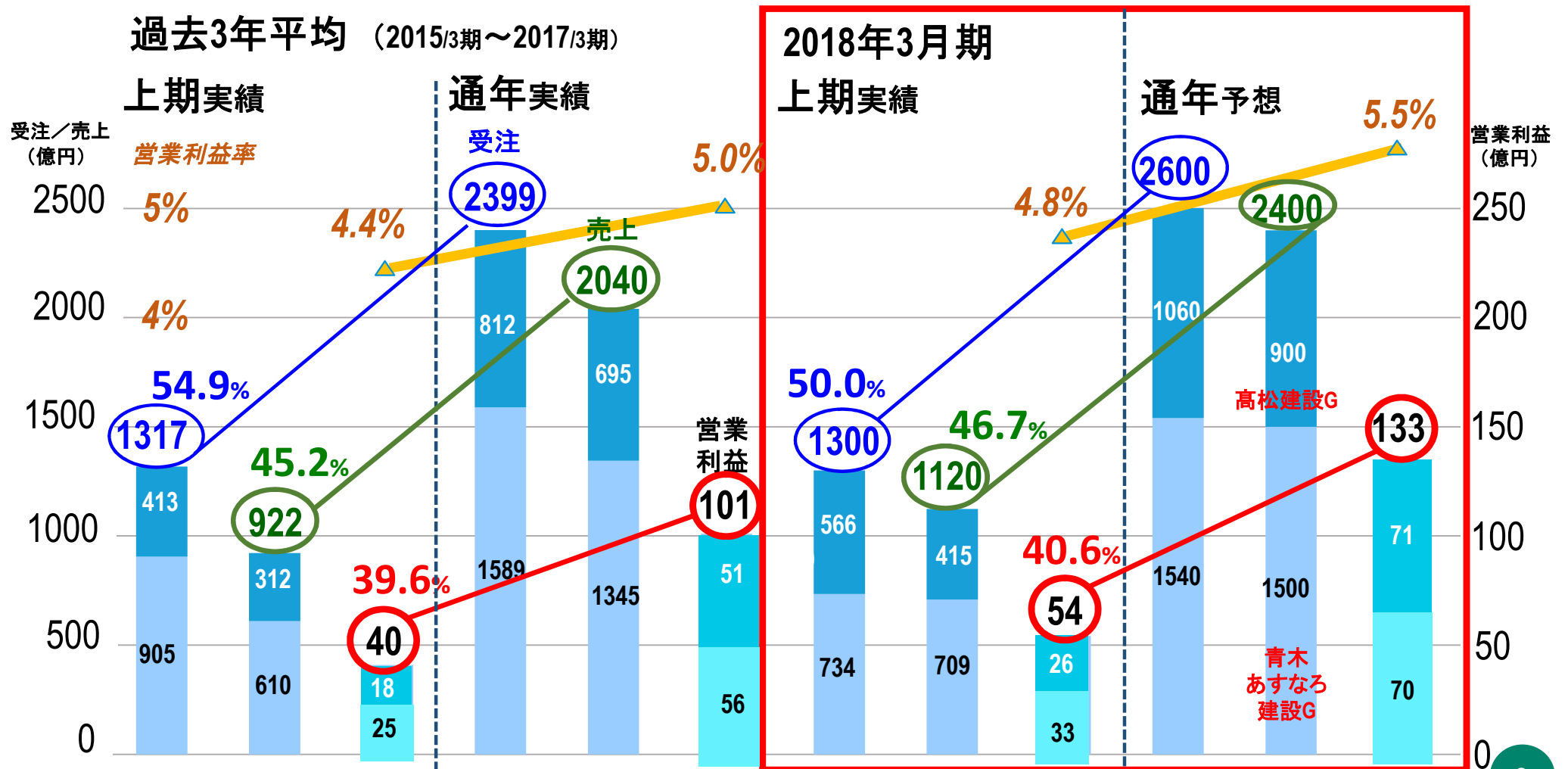
1. 前期の受注・売上総利益に特異値あり、過去3年平均と今上半期の比較が、通年予想を見る際も判りやすい。
2. 受注高は高松Gの伸びが著しい半面、青木あすなろは過去平均を下回った。
3. 売上高・営業利益は両Gとも増加、順調に推移している。
4. 営業利益率は過去3年平均の4.4%を0.4pt上回る4.8%。



単位: 億円。 TCG単体・連結調整等があり、グループごとの合算値は全社合計と一致しない。

受注高・売上高・営業利益の推移と見通し（対過去3年平均、連結）

1. 過去3年平均の通年実績に対する上期実績の進捗率は、営業利益は39.6%。
2. これに対し、今上期の営業利益54億円に39.6%を割り戻すと136億円。133億円の達成は問題ないと考えている。
3. 同様の計算から、売上高の達成も問題なしと考えている。
4. 受注は計算上は厳しいが、受注実績は計画を上回るペースで推移中。
 - 2600億円の達成も困難でないと考えている。



今後の見通しについて

市場環境認識と高松コンストラクショングループの成長イメージ

環境認識

プラス要因

- 国内建設投資額は50兆円を上回る水準が3年は持続すると見る。
- 東名阪の世帯数は高水準を維持、新築住宅着工も好調持続を予想。
- 首都圏の賃貸マンション建設は当面好調が継続すると見る。

マイナス要因

- 国内建設投資は中計終了年度の2020年以降、縮小の見通し。人口も縮小トレンド加速。
- 建設労働者の減少に伴う原価の上昇トレンド。
- 賃貸マンション需要が金利上昇・空室率UPなどで急速にしばむリスクあり。
- 新設工事件数の減少。



高松コンストラクショングループとしての成長イメージ

1. 好調な首都圏の賃貸マンションを成長の中核とし、受注拡大・持続的成長を可能にする体制構築を目指す。
2. その反面、中長期的に市場が現状並みから縮小すると考えられる土木・官公庁関連事業は、堅実なシェアアップ・高利益率の持続を目指す。
3. 上記が実現できる経営基盤も整備。

グループビジョンと中期経営方針：高松建設グループ（1）

1. 高松建設は、高松コンストラクショングループの母体となった中核会社。
2. 高松建設は、お客様に徹底的に寄り添ったビジネスモデルで
確固たる地位を確立。

- ① 土地有効活用ビジネスの先駆的存在（1960年代より確立）
- ② 富裕層や法人企業への提案型営業
（税務・法務・土地購入・建築・賃貸・維持管理・修繕でのトータル提案）
- ③ 東・名・阪の都心部の駅前・好立地にランドマーク的マンションを建設、
高入居率・高賃料物件を提供

3. 2018/3期も、3期連続での 増注・増収・増益を達成見込み。

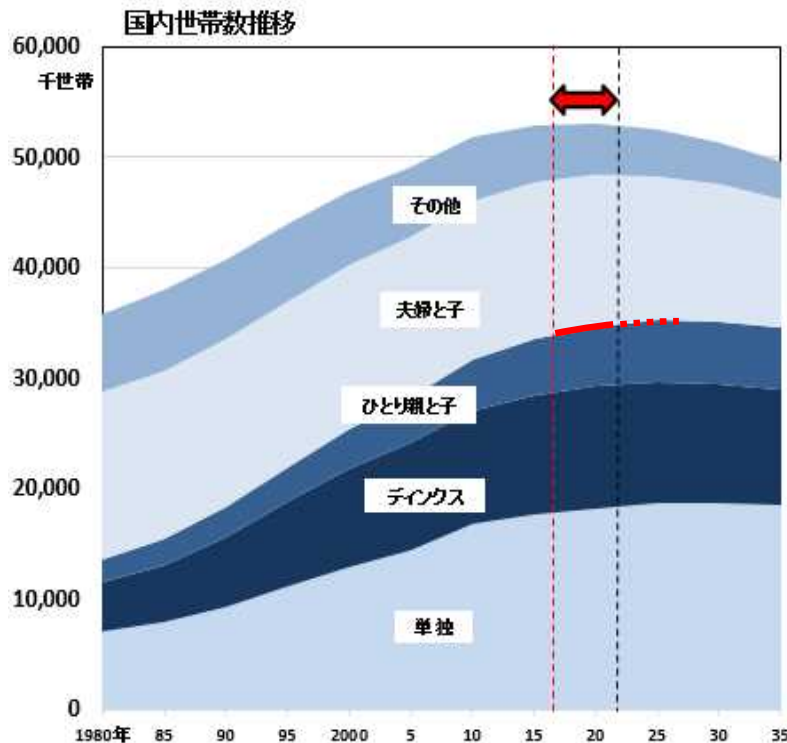
4. 建築累積棟数は、首都圏 1,320棟、近畿・名古屋圏 3,180棟、

合計4,500棟の実績。

5. 今後の市場動向として、日本の世帯数は中計期間中はピーク値の継続が予想され、
単身、デINKス、ひとり親と子世帯はさらに増加が
予想されている。

6. また、この世帯数のピーク値の増加ないしは継続は、
東名阪、特に東京で顕著。

7. 今後もピークが継続するとみられる東名阪、少人数世帯
が、高松建設の主力施工案件である賃貸マンションの
ターゲット入居者。



グループビジョンと中期経営方針：高松建設グループ（2）

8. 高松建設を大きく伸ばす計画に伴って、高松建設とシナジー効果の高い以下の4社を本年4月に社名変更。連携を強化し高松建設グループの成長を牽引します。

不動産管理



(株) 日本建商
売上高：107億円
(17/3、東京・大阪合算)



高松エステート (株)
売上高：140億円
(20/3、東京・大阪合算)

リフォーム
大規模修繕



やまと建設 (株)
売上高：43億円
(17/3、東京・大阪合算)



高松テクノサービス (株)
売上高：67億円
(20/3、東京・大阪合算)

9. また近年は、物流施設や病院、工場などの大型受注も増加中。

青木あすなろ建設とのJVなどを通じて、今後も伸ばす方針。

10. 高松建設を中核に、2020/3期の売上高1,080億円を目指し、2017/3期に比べ、42%成長を目指します。



DPL流山 I (青木あすなろ建設とのJV)

グループビジョンと中期経営方針：青木あすなる建設グループ

1. 青木あすなる建設グループは、東証一部上場企業の青木あすなる建設を中心とした9社で構成。
2. 青木あすなる建設単体での土木建築比率は受注高・売上高ともほぼ5:5。
3. 連結ベースでは、海洋土木に強みを持つみらい建設工業・青木マリーン、法面保護等が得意な東興ジオテック、舗装工事のあすなる道路・新潟みらい建設、リノベーション工事のエムズ、遺跡発掘・調査の島田組・アクセスが揃い、土木：建築が7:3と土木が中心。
4. 研究開発にも注力。（「既設橋梁の耐震性向上技術の研究」「複合露出柱脚」「折り返しブレース」「無人化遠隔施工における操作ガイダンス」等）
5. 青木あすなる建設単体で合併以来最高の営業利益を確保するなど、青木あすなる建設グループ連結で大幅な増益を確保し、2017/3期の高松コンストラクシヨングループの好決算に大いに貢献。2020/3期には売上高1,600億円を目指す。
6. i-コンストラクションへの積極的な対応による生産性向上と事業領域の拡大を目指す。

17/3期 代表事例 (1)

遠隔操縦式水陸両用機械による海岸保全復旧工法を採用した施工事例



17/3期 代表事例 (2)

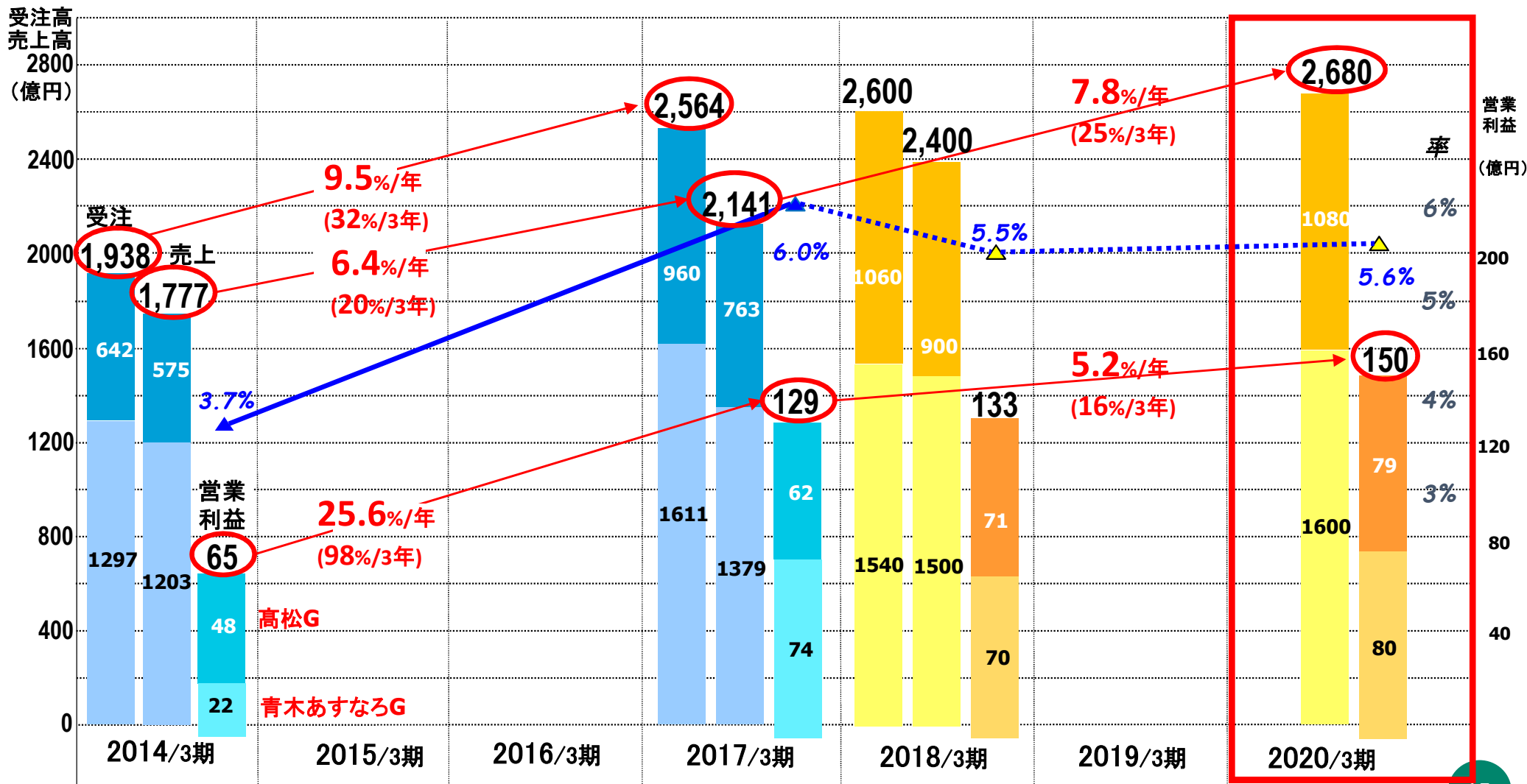
福島県警本部を単独受注。
(請負金額70億円)



中計「TRY! NEXT CENTURY 2020」の概要

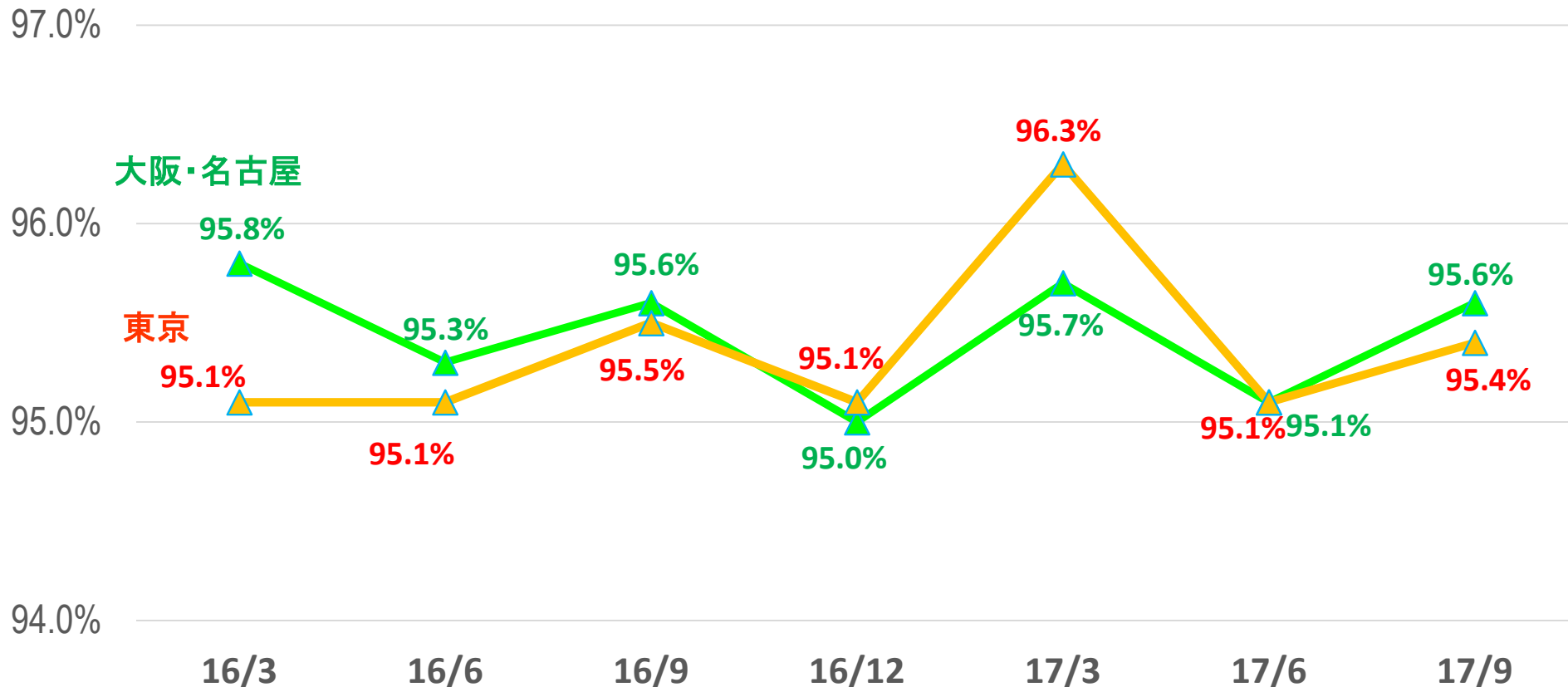
高松コンストラクショングループ全体のキーワード:

1. チャレンジ2680 → 2020年3月期の売上高2,680億円、年成長率 7.8%
2. スペシャリティ18α → 当社グループ事業会社18社の成長と、積極的M&Aの実施による事業拡大
3. クオリティ150 → 高品質で高効率な施工を維持・向上。2020年3月期に営業利益150億円達成
現在、順調に進捗中。



高松エステートにおける高松建設施工物件の入居率

1. 東京・大阪ともに、入居率は95%以上を維持している。



定義 「大阪・名古屋」=大阪府、京都府、兵庫県、名古屋市
「東京」=東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県
「入居率」=各四半期末時点の高松建設施工物件の入居戸数
÷各四半期末時点の高松エステート(大阪、東京)が
管理している高松建設施工物件の総戸数

事業の現状、進行中プロジェクト等について

1. 高松建設の受注状況
 - 足元堅調、減速感はない。
 - 大型プロジェクト等も年1件受注のペースで中計策定、順調に商談進行中。
2. 青木あすなろ建設グループの新規事業領域
 - 再生可能エネルギー関連堅調、今後は風力発電の受注と、リプレースに注力予定。
 - バイオマス関連工事を受注(みらい建設工業・東興ジオテック)。
海流発電の実証実験に参加(みらい建設工業)。
 - 環境関連施設の更新に伴う大型受注にも注力。
3. M&A: 現在もハイペースで案件検討中
 - 事業承継案件が大部分な一方、救済型案件はほぼなし。
 - 検討案件のさらなる増に向け、情報収集先を拡大。
4. 海外進出の検討を一步進め、10月に米国現法を設立
 - 11月から2名体制で事務所を立ち上げ、市場調査に着手。
5. 採用者数もハイペースで増強継続中
 - 新卒採用数: 15/4=201名、16/4=161名、17/4=176名、**18/4=240名、19/4=220名**が年初アナウンス。18/4新卒は、ほぼ100%確保済。
6. 本年10月に100周年記念式典実施。
 - グループブランドスローガン、グループブランドロゴ制定
7. 自己株買いを推進
 - 上期にTCG株式を60.03万株(1.54%)購入。
 - 青木あすなろ建設も自己株買い推進、TCG持株比率は77.6%に上昇。